別紙１

令和８年度　泉が丘小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す児童像含む）

よりよい社会と幸福な人生を切り拓き，未来の創り手となれるように，確かな学力と豊かな心，健やかな体をもち，これからの社会を力強く生き抜くことができる力をもった，たくましい児童を育成する。

- 進んで学び，基礎・基本をしっかり身につける子　　（ しっかり学ぶ　泉っ子 ）
- 学びをもとに考え，問題解決ができる子　　（ よりよく生かす　泉っ子 ）
- 自分の生き方を考え，誠実で思いやりがある子　　（ なかよく生きる　泉っ子 ）
- 健康や安全に気をつけ，元気に生活できる子　　（ 元気でがんばる　泉っ子 ）

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童一人一人が，みんなとともに生き生きと輝く学校」を目指す。

- 児童が夢と希望をもち，明るく活気に満ちた学校
- 気持ちのよい環境で，温かい心の触れ合いにあふれ，仲間とともに仲よく学べる学校
- 家庭・地域と連携した教育活動を推進し，信頼される学校

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1） 一人一人を尊重し，人格の形成を目指す学校　〔子供一人一人のよさや個性を大切にしよう〕

一人一人の児童について知・徳・体の調和のとれた成長を促すとともに，個人及び公民的資質の伸長を図り，教育目標の具現に努める。

（2）　しなやかに生き抜くために必要となる資質・能力を確実に育成する学校　〔日々の授業に最善を尽くそう〕

全ての教科領域で，「基礎的・基本的な知識・技能」，「思考力・判断力・表現力」，「学びに向かう力，人間性等」の育成を目指し，「主体的・対話的で深い学び」を通した質の高い教育の充実に努める。

（3） 思いや願いを豊かに表現できる学校　〔明日も来たいと思う学校・学級をつくろう〕

豊かな感性を育て，互いに高め合える学級集団の育成を推進し，いじめ・不登校・集団不適応など，児童指導上の課題解決に努める。

○（4）「社会に開かれた教育課程」を実現し，家庭・地域に信頼される学校　〔保護者や地域と共に子供を育もう〕

伝統ある校風を基盤に，児童・保護者・地域の実態や思いを共有し，創造的・計画的に連携を進めて，地域の信頼と要請に応え，公教育の使命を果たすように努める。小中一貫教育の推進にも積極的に取り組む。

（5） 教職員が学び続け，生き生きと働く学校　〔自ら学び，生き生きと働こう〕

教職員としての自覚と使命感を持って，絶えず研究と修養に努めるとともに，自身のライフワークバランスを整え，生き生きと働けるようにする。

（6） 業務量管理・健康確保措置の実施

教職員が健康で生き生きとやりがいを持って勤務し，質の高い教育を行うため，下記の目標を掲げ，働き方改革を推進する。

・教員の時間外在校等時間を１か月で４５時間以内，１年間で３６０時間以内（令和１４年度末）
・児童生徒と向き合う時間を確保できている教員の割合９０％（令和１４年度末）
・時間外在校等時間が１か月８０時間を超える教職員の人数０人を目指す。（令和９年度末）

【泉が丘地域学校園教育ビジョン】
望ましい人間関係をつくり，進んで学び合う児童生徒の育成　～学びの泉　おもいやりの泉　げんきの泉～
泉が丘中・今泉小・泉が丘小の３校が連携・一貫して「学び・共に行動し・鍛える」教育活動に取り組むことにより，３校共通の学校経営の重点である「児童生徒の人間関係構築力」の育成を図り，相互に関わり合いながら「共に学ぶこと」「共に行動すること」「共に生きること」について考えさせることにより，各校における教育課程実践の充実・深化を図る。

４　教育課程編成の方針

（１）学校教育目標達成のために設定された学校経営の理念及び学校経営の方針，地域学校園の教育ビジョン，今年度の重点目標，今年度の努力点や具体策を踏まえ，全教育課程に意図的・計画的・系統的にその具現化を図るため，教科等横断的な視点に立って編成する。

（２）児童の学校生活の場として設定している，朝の活動，授業時間（各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間＜泉の時間＞，特別活動），休み時間（業間，昼休みを含む），給食の時間，清掃の時間を基本的な枠組みとして教育課程を編成し，各教育活動相互の関連とその配置のバランスを図り，時数を確保する。

（３）年間的な枠組みとしての２学期制をもとに，教育内容の設定と授業・教育活動時間相互の有機的な関連を図る。また，効果的な教育活動の規模等について，重点化を図りながら，柔軟性をもたせ，教育活動全体として計画的・機能的で一貫性のある調和のとれた実施計画を作成することにより，学校教育目標の達成を図る。

５　今年度の重点目標（短期的視点）

※「小中一貫教育･地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

「『いいね』と『わくわく』がいっぱい！楽しい学校　泉が丘」を合言葉とし，児童・教職員・保護者・地域の人々すべてを組織の一員と捉え，一丸となって誰もが「明日も来たい」と思える学校づくりを推進する。

①学校ＨＰや学校だより，学年だよりなどを通した，学校経営方針や本年度の重点目標を具現化する取組等の積極的な情報発信と理解推進

○②泉が丘地域学校園の小中一貫教育，地域の教育資源の積極的な活用による「学校力のさらなる向上

③日常業務の精選や行事・日課の工夫，ＩＣＴ活用した労力軽減の推進による，教職員が気持ちよく児童や業務に向き合える環境の整備

（２）学習指導

①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による確かな学力の育成

②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進

③基礎基本の確かな育成

④教科担任制の推進

⑤教科横断的な視野に立った資質・能力の育成

⑥家庭学習への意欲の向上と習慣化

（３）児童生徒指導

①一人一人の「いいね」を生かす学年・学級経営の充実

②豊かな感性を育む活動の充実

③問題行動や不登校等への組織的対応

④宮っ子心の教育の推進

⑤地域社会・関係機関との連携の強化

（４）健康（保健安全・食育）・体力

①運動に親しむ資質・能力の育成

②食育・保健指導の充実

③安全教育・校内安全指導の充実・徹底

６　自己評価　A1～A21は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学習活動の中で，考えを伝え合ったり，自分の考えを説明し合ったりする際，学び合う視点を示す等，発達段階に応じてより考えを広げたり深めたりできるようにする。 ②児童の実社会や実生活に関連した教材・教具を用いながら，単元の中で，児童の「わくわく」を高められるように工夫していく。 ③1 人 1 台端末や図書資料等から，必要な情報を収集し活用する学習活動を適宜設定し，進んで学習に取り組むことができる環境を整える。 ④「家庭学習の手引き」を全学年にプリントで配付し，活用できるようにする。家庭学習強化週間を年１回程度（秋頃）実施し，学校と家庭で連携して家庭学習の習慣化に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」⇒保護者の肯定的回 85%以上	①道徳的価値を実生活の中から捉えられるような道徳科の授業を実践し，生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。 ②人権に関する標語等を作成し，効果的に掲示することにより，人権尊重の精神を涵養する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ３　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「私は，夢や目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」⇒ 児童の肯定的回答 85%以上	①本時のめあてを明示し，課題に対して見通しをもたせ，解決に向けて粘り強く取り組むことができるよう配慮し，「よく考えた，分かった，できた」という喜びを味わえる授業づくりに努める。 ②キャリアパスポート等を活用し，児童が自らの成長を振り返る力と，教師・保護者がその努力を認め励ます協働的な支援体制を整える。		【達成状況】 【次年度の方針】

1－（3） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①保健委員会からの呼び掛けや保健室前の掲示物等を利用して，危機察知能力の向上を図り，けがの防止に努められるようにする。（校内の危険個所の共有，けが発生の原因の理解，危険の回避の仕方の指導等）。 ②保健室からの指導や読み聞かせボランティアとの連携を通して，「性」に対する指導を計画的に行い，身体に対する理解を図るとともに，性犯罪の防止（被害者にも加害者にもならない）に繋がるようにする。 ③交通安全，生活安全，災害安全について，避難訓練や交通安全教室等を通して指導し，自分の身は自分で守る意識を高め，適切な判断力と行動力を身に付けさせる。 ④学習内容に合わせた栄養教諭の指導や家庭との連携を図りながら，朝食の摂取やバランスのとれた食事など，望ましい食生活の形成を目指す。また，給食委員会の食に関する主体的な活動を通して，食事マナーの定着を図り，児童が自ら健康や安全に気を付けて生活できる実践力を育成する。		【達成状況】 【次年度の方針】
1－（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　児童は，自分のよさや成長を実感し，協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，自分の良さや考えを生かしたり，周りと協力し合ったりして，進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①係活動や当番活動など，周囲のために活動する機会を積極的に確保するとともに，学級内での認め合いや称賛の場を充実させることで、自己有用感を高める。 ②縦割り班活動や児童会活動等の充実を図り，異年齢集団と関わる場を通して，上学年から学んだり下学年の支えになったりするよさを実感できるよう支援する。		【達成状況】 【次年度の方針】
2－（1） グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に，英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①英語でのやり取りを中心とした授業を展開および授業以外の時間も活用して児童が英語に慣れ親しむ機会が多くなるようにする。 ②ＡＬＴとの会食や手作りの掲示物等で外国語に触れる機会を増やす。 ③「４つの大切」を意識した児童のやりとりや発表を全体に共有して称賛したり，児童が達成感や満足感を味わえる声掛けをしたりすることで，言語活動の充実を図り，進んで英語を使おうとする態度を養う。 ④単元の中で児童が「できた」という実感をもてるように振り返りのワークシートを工夫し，教師からフィードバックをすることで自信をもたせる。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ａ７　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①社会科・総合的な学習の時間における「宇都宮学」の充実を図り，郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ②各教科・領域と宇都宮学とを関連付け，児童が宇都宮の良さを実感できるように，学年に応じて指導する。 ③宇都宮産の食材を使った給食を栄養教諭により紹介することで，地域の良さに気付かせ，郷土への関心を高める。 ④道徳科の授業において，「道徳科地域教材」を活用し，郷土愛について考える時間を設ける。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（２）情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　児童は，デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，パソコンや図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①教職員が ICT 機器の特性を知り，授業で効果的に活用できるよう，校内研修等で技能向上を図る。（新しい機能やツール，児童用デジタル教科書の活用等） ②GIGA スクール構想における 1 人 1 台端末の活用について，児童が端末に慣れ親しみ，学校や家庭で適切に活用することができるよう，授業において計画的に指導する。 ③各教科及び各種年間指導計画に図書館の利用を適切に位置付けるとともに，司書と連携を図り，学習に活用するための図書資料を計画的に準備し，学習環境を整える。 ④学年に応じて情報モラル・デジタルシティズンシップの指導も行い，アカウントやパスワードを適切に管理（自分で覚える，他人に教えない等）できるように指導する。 ⑤ICT 機器を活用した児童の活動の様子を，学校ＨＰや各種だより等で積極的に発信していく。		【達成状況】 【次年度の方針】
２－（３）持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　児童は,「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は,『持続可能な社会』について，関心をもっている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①授業での該当単元において,SDGs との関連を図りながら身の回りの課題を探究的に解決していくことにより，地域や社会に目を向け，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 ②各種委員会の取組で SDGs につながる活動を紹介したり，掲示物を工夫したりする等，全校生への周知・啓発を図る。 ③環境問題やエネルギー問題等から，節電や節水，リサイクル等に取り組む習慣を身に付けさせ，「持続可能な社会」につながることを指導していく。		【達成状況】 【次年度の方針】

３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「教職員は，特別な支援を必要とする児童（生徒）の実態に応じて，適切な支援をしている。」⇒職員の肯定的回答95%	①特別な支援が必要な児童の実態や支援の手立てについて，全職員で共通理解を図り，迅速かつ組織的な対応にあたる。 ②特別支援学級に限らず，通常の学級においても特別な支援を必要とする児童について，個別の指導計画を作成し，全職員で共有し計画に基づいた支援を行う。 ③特別支援コーディネーターや担任との連携のもと，かがやきルームの効果的活用を図るとともに，少人数指導等，個に応じた指導の充実に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】
３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「先生方は，いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒保護者の肯定的回答85%以上	①いじめは絶対に許されないという考えのもと，教職員によるいじめ防止に関する日常的な指導や「泉が丘小いじめ防止基本方針」に基づき職員研修などを通して共通理解を図り組織的に指導にあたる。 ②学校生活アンケート，教育相談を通して，いじめの早期発見に努めるとともに，被害者の立場に立って継続的に関わることにより，確実な解消を目指す。 ③「いじめゼロ強調月間」には，児童会が主体となって，呼びかけや「いじめゼロ運動」を展開し，学校全体で一人一人がいじめに対する正しい判断力や行動力をもつことができるようにする。 ④人権に関する標語等を作成し，効果的に掲示することにより，人権尊重の精神を涵養する。 ⑤児童指導だよりを年に数回発行し，いじめを防止する取組について HP や学年だよりを通じて保護者に向けて知らせる。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ12　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「教職員は，不登校を生まないよう，一人一人の児童を大切にし，児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」⇒職員の肯定的回答90%以上	①道徳科の授業や学校生活全体を通じて，心の教育の充実を図る。 ②児童が自己肯定感や自己有用感を高められるよう，帰りの会等で互いのよさや努力を認め合う機会を設けるとともに，係活動や委員会活動で児童一人一人が活躍できる場の設定を工夫する。 ③Ｑ－Ｕ等を生かした学級集団の実態把握と分析を行い，どの児童にとっても自分の居場所となるような温かな雰囲気の学級経営に努める。 ④スクールカウンセラーの周知を継続的に行い，教育相談体制やケース会議の充実を図るとともに，常時，適時に児童の様子を共有し，　児童の心のケアを行う等，学校全体で迅速に対応する。 ⑤児童指導だよりや学年だよりを通して児童一人一人のよさを認め育てる取組について保護者に向けて知らせる。		【達成状況】 【次年度の方針】

3－（3） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3－（4） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13　学校は，一人一人が大切にされ，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は，児童（生徒）の悩みに寄り添い，相談に乗ったり，問題の解決に努めたりして，児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①学校行事や縦割り班活動に，児童の願いや思いを反映させ，意欲的に参加できるようにする。 ②児童が，互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できる態度を育てる。 ③学校生活アンケートやＱ－Ｕ，年間２回の教育相談を実施し，児童の悩みに寄り添いながら問題の早期発見・解決に努め，保護者や教員間で情報を共有できるようにするとともに，よりよい学級経営に努める。 ④児童が一人一人のよさを発揮し，自己肯定感を高められるよう，授業や帰りの会等で児童のよさや努力を認め，称賛できる機会を積極的に設ける。		【達成状況】 【次年度の方針】
4－（1） 教職員の資質・能力の向上	A14　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく，一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は，児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど，きめ細かな指導をしている。」⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上	①本時のめあてを明確にし，児童と共有することで「分かる授業」の実践に努める。 ②書く活動を充実させるために，振り返りの視点を作成し，児童自身が自分の学びを文章で書けるようにする。教師は，児童の記述をもとに授業改善に努める。 ③基礎・基本を確実に習得させるために，全教職員で共通理解を図り，朝の学習の時間での個別支援を充実させる。 ④学年内で日々の授業についての情報交換や教材研究を行い，成果や課題について相互に意見を交換することで，よりよい授業づくりにつなげていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
4－（2） チーム力の向上	A15　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①「『いいね』と『わくわく』がいっぱい！楽しい学校　泉が丘」の合言葉のもと，担当する校務分掌において，個々の専門性を生かしながら質の向上を目指すとともに，連携・協力をさらに深め，業務の円滑化に努めていく。 ②各担任・専科教員・少人数指導・養護教諭・事務職員・栄養教諭・司書・かがやきルーム担当・ALT・医療ケア・学校業務担当・サテライト教室担当，スクールカウンセラー等全職員が一丸となって児童への指導や教育環境整備を行う。 ③学年主任や管理職への報告・連絡・相談を徹底し，早期的な問題の把握と組織的な対応に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

４－（３）学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①現在の日課を継続し，放課後の時間を有効に活用する。また，日常業務の精選，行事・日課の工夫，リフレッシュデーの設定等により，業務の効率化に努める。 ②打合せや会議等の時間の効率化を図ったり，ミライムや学習情報システム，さくら連絡網等の ICT を活用したりし，業務の適正化を推進する。 ③教職員で業務改善に向けた意見を出し合い，積極的に改善に取り組むとともに，教職員一人一人の勤務時間，業務内容に関する意識改革を目指す。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ａ17　児童と向き合う時間を確保できている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，児童生徒と向き合う時間を確保できている」⇒教職員の肯定回答 85%以上	①チームで支える児童理解と，個を大切にする指導の徹底に努める。 ②学校が担うべき本来の役割を見極め，業務の精選や行事・日課の見直しを行うとともに，ICT ツールや AI を効果的に活用して校務の効率化を図る。 ③学年内における教材・資料の共有と業務の適正な平準化を推進し，教職員の業務負担を最適化することで、児童と向き合う時間の創出と教育活動の質的向上を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（１）全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ18　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①地域学校園内の小中学校と連携し，各部会・分科会で協働しながら小中一貫のカリキュラムの取組の充実や地域の教育資源に関する情報交換を図る。 ②一人配置職員の連携を密にし，持続可能な校務運営と教育活動を計画・実践し，学校力の向上を図る。 ③小中合同清掃や乗り入れ授業，宮っ子チャレンジの受入れ，合同あいさつ運動，特別支援学級交流会等，地域学校園が連携して行っている教育活動について学校ＨＰや各種たより等を通じて地域や保護者に積極的に情報発信し，「小中一貫教育」の取り組みへの理解を高めていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
５－（２）主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３）地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ19　学校は，家庭・地域・企業等と連携･協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①地域協議会や民児協関係者との情報交換会で授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら，地域との連携をさらに高めていく。 ②読み聞かせボランティア，ICC 文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り，その様子を学校ＨＰ，各種たより，校内放送等を通じて地域や保護者に情報発信し，活動への理解を深めていく。 ③学習のねらいに則した出前授業を積極的に行い，企業や各種団体と連携を図りながら教育活動を充実させるとともに，各教科年間指導計画に明記し，次年度に引き継げるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】

６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ20　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。（校内の施設，設備，駐車場など）」⇒地域の肯定的回答 85%以上	①校内の施設，設備及び校庭の遊具等について定期的な安全点検を徹底し，危険個所については迅速な対応に努める。 ②危機管理マニュアルを全職員で確認し，避難訓練や引き渡し訓練等を通して，事前事後指導を丁寧に行い，不測の事態への対応に備える。 ③年度に応じて掲示等の校内環境を整備し，利用する人それぞれが主体的に安全に留意できるよう配慮する。		【達成状況】 【次年度の方針】
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ21　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から，授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，授業（授業準備を含む）や業務に，デジタル※を積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末，学校用グループウェア，校務支援システム，デジタル連絡ツールなど⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①教室に実物投影機等を配備したり，有効な物品を教職員で共有したりして，デジタル機器が常に使いやすい状態になっているよう，学習環境を整える。 ②1 人 1 台端末の管理を適切に行い，効果的な教材を共有することで，学習活動が円滑に行えるよう取り組む。端末使用の約束については児童と保護者に定期的に周知し，正しい使い方を身に付けさせる。 ③ICT 支援員と連携し，児童が授業等において，1 人 1 台端末を効果的に活用できるように支援し，主体的・対話的で深い学びを促進し，児童の情報活用能力を育成する。		【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校，地域学校共通，本校の特色・課題等	Ｂ１　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，時と場に応じたあいさつをしている。」⇒児童の肯定的回答 85%以上 「児童（生徒）は，時と場に応じたあいさつをしている。」⇒地域の肯定的回答 85%以上	①児童が主体となって取り組むあいさつ運動等についてＨＰや各種たよりを活用して積極的に発信し，挨拶の啓発を行う。 ②児童会活動を通して，挨拶の仕方や大切さを伝え，児童が自ら挨拶できるようなきっかけづくりを行う。また，各学級も朝の時間にあいさつ運動を行う。学級活動や道徳科等の授業を通して，発達段階に応じ，挨拶の意義や心的効果について指導し，校内及び地域の方々への自発的な挨拶の啓発に努める。 ③日常的にあいさつをするために，教師から積極的にあいさつをする。また，時と場合に応じて適切なあいさつを使い分けられるよう各学級で指導する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	Ｂ２　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，きまりやマナーを守って，生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①生活目標を「泉が丘小学校の一日」と関連付けて提示し，日々振り返ることで，秩序ある充実した学校生活を送ることができるようにする。 ②生活当番による児童の実態に合わせた「生活目標」の焦点化と，目標達成に向けた指導を行うとともに，帰りの会等で振り返りを行い，達成状況を確認する。 ③決まりやマナーを守った行動に対し，児童が互いに認め合う機会や教職員の称賛によって意識付けながら自己指導能力の育成を図る。 ④決まりやマナーについてなぜ必要なのかを児童に考えさせ，自ら判断できる力を育む。		【達成状況】 【次年度の方針】

	Ｂ３　児童は，自分の健康を考えて適度に運動する習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケ―ト 「児童は，休み時間や放課後に，体を動かしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童が扱いやすい体育用具等を整備し，児童の運動への興味・関心を高める。 ②保健領域と関連付け，健康の保持増進のために，自己の健康に関心をもたせるとともに，運動に親しませ，外遊びを奨励する。 ③体育科の授業での課題選択できる場の設定，児童が自ら運動参加することに繋がる授業展開，運動委員会主催による企画の実施等，児童が進んで運動できる機会を創出する。 ④新体力テストの結果を活用した授業の補強運動などに取り組むことを通して，基礎体力や運動技能の向上を図る。		
	Ｂ４　学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「学校は，学校だよりや学校公開などで，できる限り情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①さくら連絡網による学校だよりや学年だより，各種たより等の速やかかつ確実な伝達，学校ＨＰによる学校行事や学年での児童の活動の様子の伝達と，２つのツールを有効活用しながら情報の発信を推進していく。 ②授業参観やオープンスクールを実施し，学校での教育の様子を保護者・地域に公開し，地域と共にある学校を目指す。 ③地域協議会や民児協関係者との情報交換会で，授業力向上や児童指導に関する情報の共有を図りながら，地域との連携をさらに高めていく。 （A19 再掲）		
	Ｂ５　学校は，地域の自然や環境，人材を積極的に活用し，豊かな教育活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケ―ト 「学校は，地域の自然や環境，人材をできる限り活用しながら，豊かな教育活動を推進している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①児童の実態や発達段階を踏まえ，各教科・領域において地域の教育資源や人材，資料等を活用し，地域のよさについて理解させる。 ②生活科・総合的な学習の時間の学習活動や花壇・農園整備等において，地域や保護者から構成される学校支援ボランティアを積極的に活用しながら，教育効果を高めていく。 ③読み聞かせボランティア，ICC 文庫ボランティアによる読書活動や学校支援ボランティアによる教科等での協力体制の充実をさらに図り，その様子を学校ＨＰ，各種たより，校内放送等を通じて情報発信し，活動への理解を深めていく。 （Ａ19 再掲）		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7　学校関係者評価

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。